監修・執筆：石倉夏枝（ライター）

パーパスとアイデンティティとは？
変革を恐れず、次世代に笑顔をつなぐための大事な道標

気候変動に関連するさまざまな課題に直面する今、2020 年には新たな脅威として新型コロナウイルスが加わり、ますます混沌とした時代を迎えています。従来の取り組みでは立ち行かなくなった今、多くの企業はあらゆる面で『変革』を促しながら、課題解決に向けた動きを始めています。

ソミックグループでは事業のあり方を見直し、経営の効率化を図るため、2021 年 4 月にグループ内事業の統合・分社化を実施しました。そして、今後の予測不能な社会に対する適応力を備え、社員一丸となって『変革』に取り組むため、企業として進むべき方向を再定義した、2 つの指標を新たに導き出しました。それが『私たちの創りたい未来』を示す「パーパス」と、『私たちの存在意義』を示す「アイデンティティ」です。そこにはソミックグループが持続可能な社会づくりに本気で挑み、次世代に幸せで豊かな社会をつなごうとする姿勢がありました。

今回、ソミックグループを統括する、株式会社ソミックマネージメントホールディングスの代表を務める石川雅洋社長に、「パーパス」と「アイデンティティ」へ込めた想いをうかがいしました。

歴史が物語る、自ら変革を繰り返してきた 100 年

1916 年（大正 5 年）、静岡県浜松市に石川菊三郎氏が創業した「石川鐵工場」が、ソミック石川の歴史の始まりです。当時、浜松は織機産業が盛んで、菊三郎氏は機械用ボルトの製造で業績を順調に伸ばしてきました。菊三郎氏が亡き後は、長男・石川馨氏が跡を継ぎ、織機用ボルトだけではなく、新たに自動車エンジン用ボルトの製造へと事業を広げていきます。

しかし、折しも日本は太平洋戦争へと突入した時代。多くの若者と同じように馨氏も出兵しましたが、戦地・インドネシアで命を落としました。また、浜松も 1945 年（昭和 20 年）の大空襲を受け、辺り一面が焼け野原に。工場は壊滅し、従業員など 32 名が犠牲になりました。

兄の跡を継いで社長となった石川薫明氏は、終戦後、生き残った社員のために大きな決断を下します。それは、辛うじて戦火を免れた機械を用いて、自動車部品産業へ本格的に参入することでした。この時の決断が、今では自動車部品業界を牽引する存在であるソミック石川の「大きな転機となった」と石川社長はいいます。

「100 周年を迎えた 2016 年に初めて社史をつくりました。そこで、改めて会社の歴史を振り返りましたが、ソミック石川は創業時の経営思想を守りながら、各時代で変わる外部環境に呼応するように、『変革』を繰り返してきた会社であることがよくわかりました」

2018 年頃から、自動車業界は 100 年に一度の大変革期といわれるようになりました。自動車の電動化や自動化といった新たな潮流が生まれ、必然的に自動車部品メーカーにも大きな影響を及ぼすようになっています。

「間違いなく、今まで通りにつくっていれば OK とはいかなくなります。『変革』への意識は新型コロナウイルスも要因の１つではありますが、この自動車業界の『変革』、さらには世界的に大きく変わっていく時代であるということが、私に『変わらなくては』と強く思わせた大きな理由です」

理念は創業時から守り続けた大切な価値観

時代ごとの外部環境に合わせて『変わる』ものもあれば、『変わらない』ものもあります。たとえば、創業以来守り続けてきた価値観もその 1 つです。その大切な価値観は、今後も受け継ぐ「理念」として社員に受け継がれていきます。

理念
人のつながりを大切にし、力いっぱいの努力で
世の中の役に立ち、愛される会社となる

この理念が『過去からの視点』とするならば、パーパスとアイデンティティは『未来からの視点』になります。これらの３つの指標は互いに強く結ばれ、社員を進むべき方向へと導く「ノーススターメトリック（北極星指標）」といえるでしょう。

「ますます社会は複雑化し、今は何が起こるかも予測できない時代です。こんな時代に未来の絵を描くためには、自分たちのなりたい姿やどう頑張っていくのかを、今一度、考えていく必要がありました。理念は、創業時から受け継がれ、次世代に託したい普遍的な価値観を言語化したものです。それは 106 年の歴史の中で脈々と受け継がれてきたもので、社員や取引先のお客様、地域の皆さんのおかげで今があるということにほかなりません。だからこそ、理念には『人とのつながり』という言葉を入れましたし、パーパスやアイデンティティはその理念にリンクするような言葉にしたいと思いました」

未来へとつなぐために導き出した２つの指標

実際にパーパスやアイデンティティを言語化するにあたり、社内ではさまざまな意見が出されました。何度も議論を重ねる中、「『笑顔』こそ、私たちの強みであり、次世代に残さなければいけないものだ」と石川社長は確信し、パーパスを「次世代へ笑顔をつなぐ」としました。

パーパス
次世代へ笑顔をつなぐ

「笑顔は幸福の象徴です。私はお客様の笑顔もつくりたいし、一緒に働く仲間の笑顔も、地域の人たちの笑顔もつくっていきたい。皆さんが笑顔になったら、私も自然と笑顔になるように、笑顔は連鎖していくものです。それが会社、地域、日本、世界へと広がっていったら、これほど嬉しいことはありません。笑顔になりたい、笑顔にさせたいと思う気持ちが大切なのです。だから、社員の皆さんには誰を笑顔にしたいのかを考えて欲しい、そしてそれが持続できたら、次の世代へより良い社会をつなげていくことができると思います」

また、次世代に笑顔をつなげていくためにも、私たちは「製造業を変革し、創造する」存在でなければならないのだと石川社長は話しました。それこそが存在意義であり、アイデンティティなのです。

アイデンティティ
製造業を変革し、創造する

「パーパスと同じく、次の世代へ継続していくには『変わる』ことが必要です。今後の製造業は『改善』と『変革』を組み合わせながら、サービスやソリューションも考えていかなくてはいけません。そのために IoT や AI を駆使して、これまでとは全く違う世界に飛び込むこともあるでしょう。大事なのは、従来のものづくりでは終わらないということです。今後も周囲をリードし、製造業の枠を超えるために新たなことにも挑戦していく。それが『創造』するということだと思っています」

業界も注視する 100 年企業の新たな挑戦

2021 年 4 月に行ったソミックグループの事業再編で目指したのは、既存事業の強化と同時に、新規事業を創出できる環境をつくっていくことでした。

「もちろん、新規事業を創出させるとともに既存事業とのリンクも考えていかなくてはいけません。しかし、新規事業で大事にしたいのは、「人の役に立つ」ということです。100 年企業という強みを持つ私たちだからこそ、できることがきっとあるはず。それは、人のことを思う、常に人が真ん中にあるんだという考え方であり、それこそが、私たちの腕の見せ所です。私はそれを社員の皆さんと一緒につくっていきたい。それが社長としての私の夢です」

ベンチャーではなく、歴史ある企業が挑む新たな試み。それは周囲の企業や人々を刺激し、いつしか大きな輪となって広がっていくはずです。石川社長は「その輪が 1 つでも 2 つでも増えてほしい」と話しました。

「私がパーパス、アイデンティティで伝えたいのは、私たちにはまだまだ新しいことができるということです。それは既存事業をおろそかにすることではありません。製造業という基盤をしっかり維持しつつも、変わっていくということです。変わることを嫌う人もいるでしょう。でも、もう今こそ変わる時、変わらずにはいられない時代なのです。大事なのは、その中でどうアプローチしていくかであり、社員の皆さんには『こんなこともできるんだ！』『こんなやり方もあるんだ！』と、変わることを楽しむ気持ちで挑戦してほしい。私自身、これからいろいろなことが変わっていくことにワクワクしています」

長きにわたって築いてきた確かな技術力があるからこそ、従来のジャンルや分野に捉われることなく、新たなチャレンジを受け入れられ、世界に拠点を置くグローバル企業だからこそ、世界各国の優れた知恵を集結させ、新たな可能性を探ることができます。『変革』に向けた数々の取り組みは、確実に次世代へとつながっていきます。

パーパス
次世代へ笑顔をつなぐ

ソミック 100 年、つないできたのは取引先・地域との信頼でした。
次の 100 年、わたしたちがつないでいくのは、世界に広がる笑顔です。
社会課題を解決する事業を増やし、この先の持続可能な社会へ貢献します。

アイデンティティ
製造業を変革し、創造する

わたしたちは、人間がより人間らしい仕事へ注力できる環境を生み出し、
皆がワクワク働ける職場を実現します。
そして、世界トップレベルの人間的企業として世の中に夢、幸せ、笑顔を創り続けます。